

# 模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年1月23日)

授業者：〇〇

範囲：国民主権と天皇

## 主な感想・代案

- まず初めに、50分授業お疲れ様でした。ドタバタとして余裕のなさを感じさせない、安定感を感じました。授業準備、お疲れ様でした。
- 授業も、現場で行われているような安定感に似たようなものを感じます。気さくにふるまう様子や、和やかな授業のムードを作っている振る舞いや小ネタも良いと思う。ただ、あとにも述べるように、私はこれらことをある一面では否定的に捉えています。

### 【これは主権者教育なのか？】

- これは大学の授業なので、あえて言えば、この授業では「国民主権」の大切さはほぼ伝わらないと思う。例えば、選挙に行っている人が30代で半分以上しかいないことなどに不安感を持った人の授業とは思えない。もっと、国民主権という仕組みが、本当に機能しているのかを少し考えさせるような授業にしたいと思います。そうしないと、「おまかせ民主主義」が持続すると思うのです（それでよいという考え方もあるかもしれない）。
  - 併せて、この授業は国民主権と天皇のことを合わせて教えているが、今一度考えたいのは、なぜこの二つの内容がセットで教えられているのかということです。
  - 私はこの授業は、二つの内容を「要領よく」関連付けながら「効率よく」学ばせる授業という感じがします。そのため、私は、この授業が主権者意識を育てる意識がかなり弱いように感じました。
- ⇒ 「主権者を育てる」という意識の土台には、社会を自分たちで作っていくべきという意識を育てることが大事だと思うし、それに反する圧力を加えられたら反抗すべきという感覚を持つことが大切だと思います。そう考えた時、まずは国民主権のうさん臭さを考えさせる必要があるのではないだろうか。選挙に行く人はそもそも少ないし、私たちは憲法を国民投票したこともないし、結局マスコミが報道するのは、地方自治よりも国政だし、最高裁判所への国民の影響力なんて、今は実質機能していないように思う。これらの前提の中で、教師が国民主権が出来ているという方が怪しい。
- ⇒ 私だったら、「国民主権は本当に機能しているのだろうか？」という問いを立てると思います。前半は、国民主権と言われるゆえんを選挙などを軸に簡単に説明する。ただ、いずれもうまくいかないことがよくあることをそのすぐ後に話す。結局のところ、国民主権は私たちの不断の努力がないと、「絵に描いた餅」になる可能性がある話をします。- 天皇のワークは工夫が見られて面白い。ただ、これを何のためにやっているのかを改めて問いたいです。生徒はなぜ天皇について知る必要があるのでしょうか？それこそ主権者を育てる授業において、天皇をどのように扱うべきだと思いますか？

⇒ 私は「象徴」という言葉を生徒に分かりやすい言葉で言い換えさせるワークを入れても良いのではないかと思います。その前に、象徴という話をする際に、皇族の政治的発言が中立性の観点から疑問視されることがあることや、一方で天皇の即位の際には日本中がその様子に注目したりすることを示しておく。その上で、「象徴」ということばを「シンボル」とかいう簡単な言い換えではなく、もう少し書き換えた言い換えを行わせる。そういう方法もあるかと思います。- やや別の論点になりますが、これからの時代は、国籍上は日本人でない人も、国や地方の政治に係る方法が模索されるべきだと思います。それがどういった形であれ、日本に住む外国籍の人に対して、人権を保障したり、一定程度の政治参加の方法を示すことは必要だと思う。そういったことを示唆するような場面がある方が良いように思います。

# 模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年1月23日)

授業者：〇〇

範囲：人権の歴史

## 主な感想・代案

- 同じく、50分授業お疲れ様でした。〇〇君同様に、安定感を感じました。授業準備、お疲れ様でした。
- 人権の歴史において重要な三つの条文を示し、考えさせるワークも工夫がなされていると思いました。ヒントが少ないのが気になりますが、大まかに全体の流れを把握するという意味では悪くない感じがします。

## 【これは主権者教育なのか？】

- ただ、〇〇君の授業も、〇〇君の授業と同様に、主権者を育てるという意識が弱いように思います。あえてこの点を強調しているのは、この授業範囲自体が、主権者意識の育成と特に密接にかかわる範囲だと思うからです。
  - この授業を通して学ぶことのメインの内容は、「細かい話はともかく、人権尊重の考えは昔から現代にかけてより改善されてきた、発展してきたんだな」ということだと思います。ただ、その発展が語られすぎるとき、人権保障がされていない現実が覆い隠されます。現代でも解決できない人種差別の問題は日本にもあるし、貧困・経済格差の問題は、1970年代ころと比べて今の方がより深刻化しているともいえます。雇用をめぐる男女差別は日本に存在します。つまり、別に現代になって人権保障が十分にされているわけではない。そういった負の側面も扱った方が、人権保障の難しさは分かるような気がします。
- ⇒ 私ならば、例えば、人権の歴史の表年表と裏年表を対比するような授業にするかもしれません。アメリカ独立宣言が行われた一方で、奴隷制度は維持されたとか。フランス人権宣言は発表された一方で、女性の参政権の獲得はだいぶ後になったとか。そういう裏表が歴史には存在すると思う。そういったことを扱った上で、現代における裏年表の内容を生徒に考えさせるというのはありかなと思います。落としどころとしては、権利保障の制度的な発展はある一方で、いずれも十分でないこと、その実現のためには人々の努力が必要であることを意識させることが必要になるかと思います。
- ⇒ さらに言えば、前回の〇〇君の授業との絡みを意識しつつ、日本の人権年表を考えさせてもいいと思います。戦前日本の社会をその際にどう捉えるのか。そこには天皇制の難しさが可視化されるように思います。国民主権が戦後に誕生したこともか扱えると思いますし、戦後日本の「裏年表」を扱えば、日本の国民主権が本当に実体として機能していたのかについて言及もできると思います。

## 【二人の授業を総括して】

- 今回の連続授業の企画、企画自体でも既に挑戦的で面白いと思うのですが、可能であれば、両者の授業がもう少し絡みあうと良かったように思います（それが難しいということも承知しています）。
- 単元レベルでのカリキュラムマネジメントは、新しい学習指導要領でも望まれている方向性ですが、生徒の対話的な学習を増やすためには、どうしても「知識をどのタイミングにどうやってインプットさせるか？」という問いと向き合わざるを得ないと思う。効率的に知識習得をさせて、考えさせる時間を確保するか。そう考えた時、〇〇君の授業と、〇〇君の授業はかなり重なり合う部分があったと思います。その点をうまく生かせば、積立式の知識習得ではなく、らせん状のように知識を薄く塗り重ねていくような知識習得の方法もあるように感じました。具体的には前の時間に軽くやった天皇・国民主権の内容を人権の歴史で再度扱うということだと思います。